

知的障害者の高齢化・重度化を 支えるために

～指定障害者支援施設における
高齢化・重度化支援事業～

リハビリテーション支援センター

リハビリテーション支援班

技師 佐々木 真奈



わが国の高齢化は
トップレベル

知的障害者でも顕著



県の課題を明確化

課題解決に向けた取組

全県への普及

県の課題を
明確化

課題解決に
向けた取組

全県への
普及

アンケート調査

- 県内の指定障害者支援施設 38ヶ所に郵送
- 調査項目
 - 〔 入所者の基本的データ
 - 〔 日常生活活動の変化について

結果

- 主に知的障害者が多く入所する施設で・・・
- 日常生活活動の低下により、介護の量・質が変化
 - リハビリ専門職の支援・助言がほしい（約9割）

県の課題を
明確化

課題解決に
向けた取組

全県への
普及

施設支援を実施

H27
年度

- 石巻祥心会障害者支援施設
ひたかみ園
- 大崎誠心会障害者支援施設
すまいるあやめ

H28
年度

- 社会福祉法人福寿会障害者
支援施設 旭園
- 社会福祉法人恵泉会障害者
支援施設 若草園

具体的な日常生活上の課題を把握

県の課題を
明確化

課題解決に
向けた取組

全県への
普及

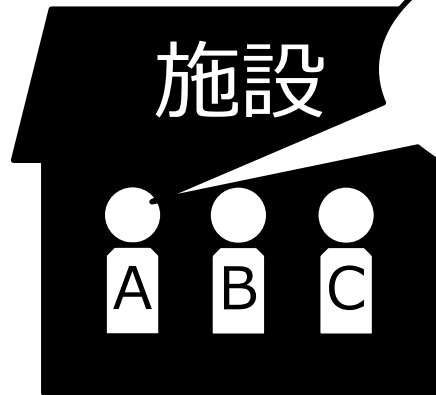
報告書の作成

- アンケート調査・モデル施設支援について
- 施設等関係機関に発送

研修会の実施

- 指定障害者支援施設における高齢化・重度化対策支援研修会
- 実施日：平成28年12月1日
- 目的：高齢知的障害者支援の先進的取組，県内の現状・課題の共有，今後の支援のあり方を考える機会
- 参加者：81名，58ヶ所（施設，事業所，市町村）

これまで…



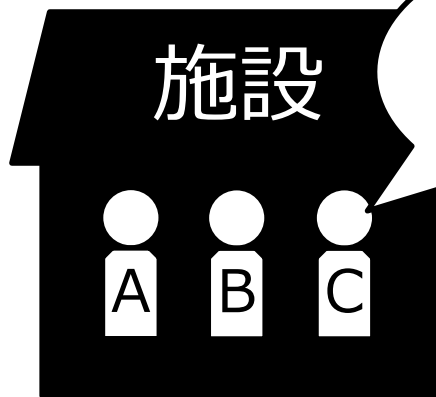
食事の時に
ムセる人が
いる！！

アセスメント・専門的助言

- 水分にとろみを付けましょう
- 一口量を少なくしましょう
- 食事前に嚥下体操



後日…



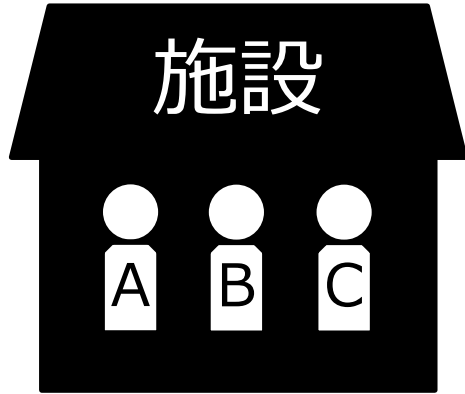
食事でムセ
込む利用者
がいる！！

同じような
事例に助言を
した気が…

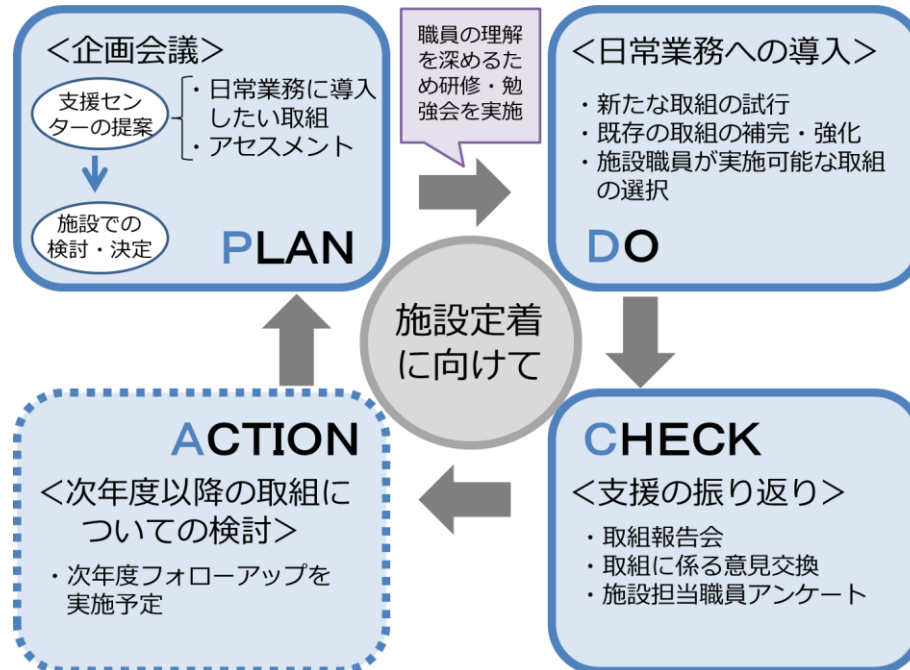
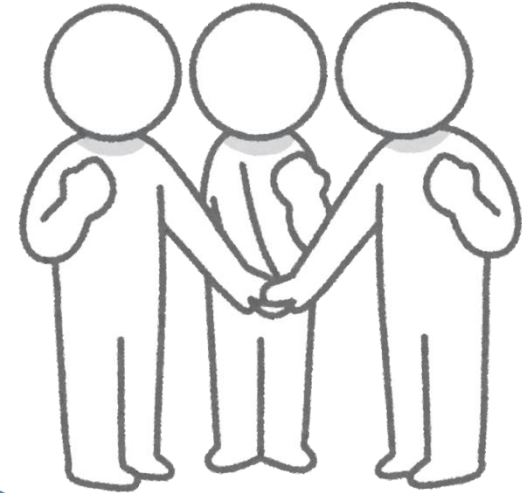


施設に定着しない…

施設支援では・・・ **専門的助言**→**協働**へ



- 施設が主体性を持つように
- 施設の体制づくりを意識



主体的・継続的な課題解決

施設が
決める

既存の
取組に

できそう
なこと

- × 職員の皆さんに基礎知識をつけるために勉強会をやりませんか？
- ◇日常業務を行う上で難しい点は？
 - ◆職員の専門知識がなくて…
 - ◇勉強会という手もありますよ？
 - ◆それ、お願いします！！

主体的・継続的な課題解決

施設が
決める

既存の
取組に

できそう
なこと

- × 新たに摂食嚥下対策委員会を作りましょう！
- すでに委員会がある施設←アセスメントの導入など，取組を強化
- 嚥下体操が続かないんです！←なぜ必要なのか理解を促す，企画案作成のお手伝い

主体的・継続的な課題解決

施設が
決める

既存の
取組に

できそう
なこと

- × (マンパワーが無いのに) とにかく毎食前に10分間の嚥下体操を！
- 食事の見守りの時間でできる観察評価の導入
- (積極的な栄養士がいる施設では) 食形態の見直し・新たな食形態の追加

専門的なサポート

研修会
勉強会

アセスメント導入

事例
検討

- 専門的知識・技術について
例: 「摂食嚥下の基礎知識」, 「食事姿勢の基本」
- 先進地の取り組みについて
例: 「国立のぞみの園の実践」

専門的なサポート

研修会
勉強会

アセスメント導入

事例
検討

- × 高齢者によく使われる一般的なアセスメント票
- 職員がわかりやすいもの
- 短時間、もしくは日常業務の中でできるもの

専門的なサポート

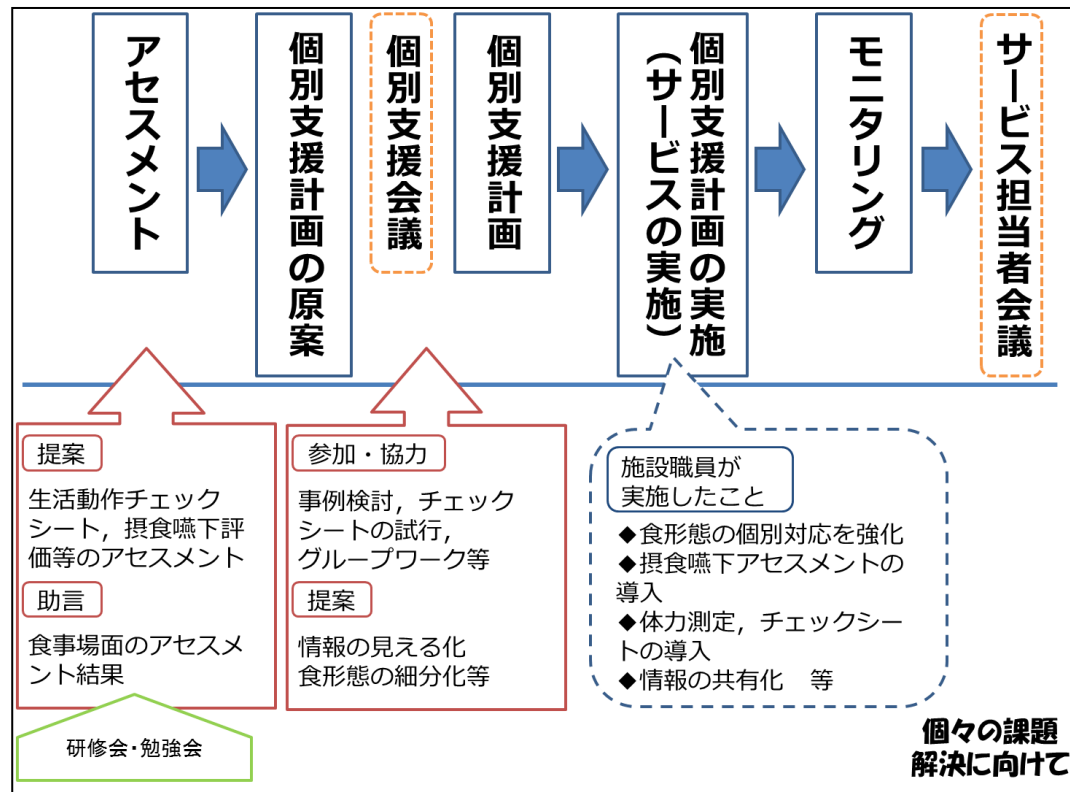
研修会
勉強会

アセスメント導入

事例
検討

- × リハ職がアセスメントを行い、対応策を提示
- すべてのプロセス（アセスメントから実際の支援まで）を施設職員と協働で行う

専門的なサポート



施設のサービス提供の流れに乗せる

Aさん（70代男性）



- 食事でよくムセるのよ！
- 盛んにモグモグしているのに飲み込めないし…
- 夕食は2割しか食べられていない



- 施設ではあまりムセないしちゃんと飲み込めてるよ
- 昼食は9割食べているし…
- 世話人さんたち心配のしすぎじゃないの？！



施設職員・世話人
集まって情報共有



場の提供

食事場面の動画で
アセスメント
※導入したアセスメント票



アセスメント結果
から課題を抽出

盛んにモグモグするが飲み込めない

食事や水分でむせる

バルーン法

※国立のぞみの園考案



検討方法
の提案



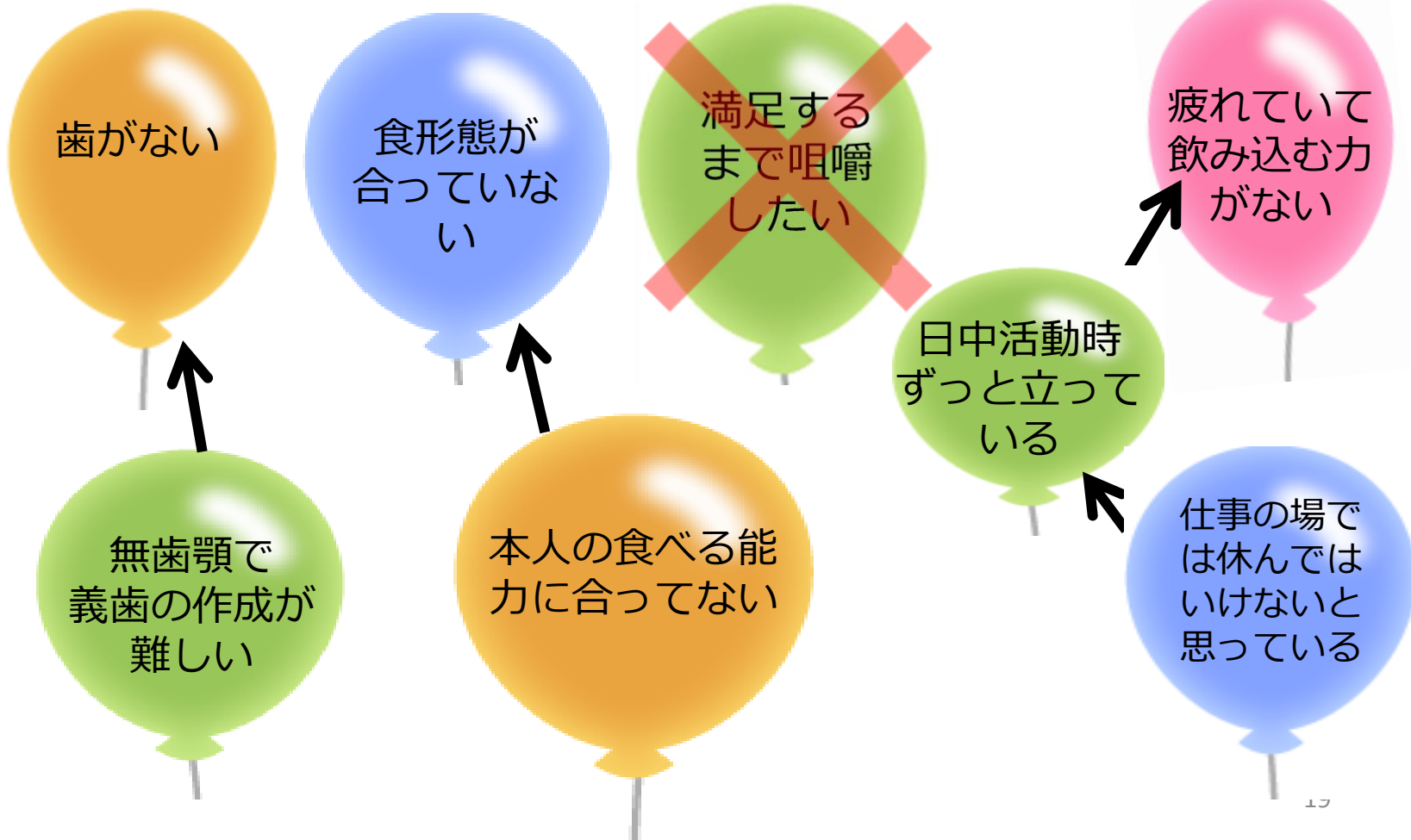
頭の中にある情報を見える化し、整理することで支援の方向性が見えてくる

Step 1 原因を考える

状況

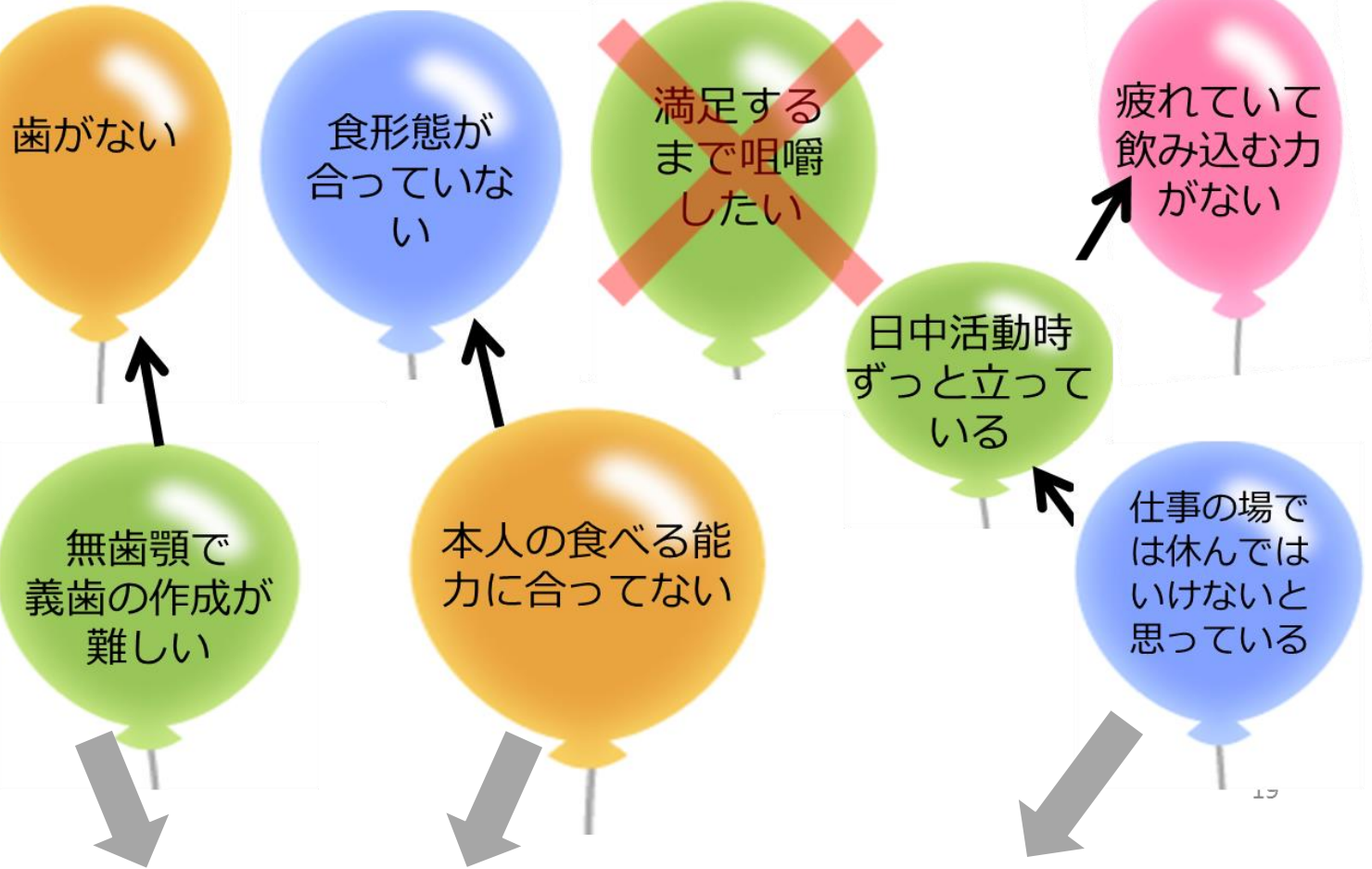
盛んにモグモグするが飲み込めない

原因



Step 2 必要な支援を考える

原因



必要な支援

本人の能力に合った食形態の提供

わかりやすい休憩場所を設け体力の消耗を防ぐ

Step 3 具体的な支援方法を考える

必要な
支援

本人の能力に合った
食形態の提供

わかりやすい休憩場所を設け
体力の消耗を防ぐ

具体的
な支援

- ・食形態をソフト食に変更
- ・本人に食形態の変更をお知らせし理解を得ておく。
- ・夕食時は補助栄養をプラス

- ・日中活動場所の横にパーテーションで休憩場所を作る
- ・休憩場所に布団を敷く
- ・活動中、適宜声がけし休憩場所に誘導する

Aさん（70代男性）



●今までグループホームの状況を訴えても伝わらなかった…

●こうして皆で話す機会があって、やっと分かってもらえた！！

●施設とグループホームでの様子がこんなに違うとは思わなかった…

●漠然としていたことが、みんなで具体的に共有できて整理ができた。

●施設が主体的かつ継続的に課題解決ができるよう、PDCAの流れを踏まえてすすめてきた



●施設職員が利用者1人1人の状態を踏まえた介助が行え、その結果の振り返りができた



●利用者のQOLの向上につながる

高齢知的障害者を支えるためには…

施設職員が主体性を持つことが必要



今後は…

地域リハ事業で全県普及を目指す